

担い手になるお母さん

観光地と人 電話で結ぶ

「おはようございます」。タクシードライバーの仲地和美さん(51)は、受話器を取るとすぐさま元気な一声を放つ。もちろん笑顔だ。国内外から訪れる旅行客のほとんどが土地勘に乏しく、第一印象が重要だ。電話口の向こう側にいる利用客に気を配りつつ送迎の依頼を受け、的確な配車につなげる。

仲地さんの電話応対は、1日に100〜150回。最近では外国人客も増え、通訳からの依頼も多くあるが開口一番、いつも通り元気に「ハロー」だ。

今では英語に興味を持ち、友人から英会話を教わっている。仕事でも英語の資料を自前で作成するなど、常に向上心を燃やしている。会社設立時から仲地さんの成長を見守ってきた同石垣島タクシードライバー

タクシードライバー 仲地和美さん(51)

ター代表社員の平良吉美さんは「とても重要なポジション。女性ならではのきめ細かな気配りはさすが」と全幅の信頼を寄せる。

仲地さんの休日の過ごし方はもっぱらドライブで、人通りが少ない山奥の細道を進むこともある。「たまにガイドブックに載っていない自然と遭遇できるんです」と魅力を語る。観光を支える美しい町並みなどには「ごみが散乱しているのを目にすると心が痛む」とも懸念している。

石垣島への印象を左右する大事な仕事。仲地さんは「電話が鳴らないと苦痛なんです。じゃんじゃん鳴った方がやりがいがあるので」とはつらつと話す。

丁寧さと元気を兼ね備えた仲地さんの声。きょうも石垣島に訪れる観光客たちを気持ち良く迎えている。

